

# 第20回 揖保川流域委員会

1. 本日の委員会の主旨について
2. これまでの委員会の流れと、今後の予定について
3. 住民意見の反映について
4. 広報・公表に関する市民の認知度調査
5. 広報・公表のあり方について

平成17年1月26日

# 1. 本日の委員会の主旨について

**現在、揖保川流域委員会では地域の声を反映した河川整備計画を議論しています。**

## 問題点1

過去の委員会において流域市民に対しての委員会の認識度や、揖保川河川整備計画に対する関心度が低いことが懸念されていました。

前回の第19回委員会では、地域への情報発信のためのコーディネータ的な仕組みの必要性についても意見が出されていました。

## 問題点2

さらに委員からは、委員会での議論、方向性が住民意見を反映できているのかという疑問や不安の声も出されています。

これらに対して、市民の揖保川に対する関心度や、市民への情報伝達の効果や認知度について今回アンケートを通じて状況を把握することが出来ました。

**本日の委員会は、これらの結果をふまえて今後の情報発信の方法や、意見の取り入れ方について議論の必要性も含めて審議をお願いしたいと考えています。**

## 2. これまでの委員会の流れと、今後の予定について

◆2002(H14)年3月:第1回揖保川流域委員会を開催

◆2004(H16)年3月:揖保川流域委員会提言

― 豊堤の心を生かす ―

揖保川ルネッサンス宣言

― 新しい河川整備を求めて

◆2005 (H17) 年5月～2007 (H19) 1月

― 河川整備計画の基本的な考え方の審議 (第13～19回)

## (2-1) 今までの委員会 (その1)

現状の認識	流域委員会提言の作成	河川整備計画原案の作成
<p><b>第1～5回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖保川流域委員会の情報公開について</li> <li>・揖保川と流域の概要</li> <li>・現地視察</li> <li>・情報の地域との共有方法について</li> <li>・住民意見の反映と広報</li> </ul> <p><b>第6回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会からの報告</li> <li>・治水に関する情報提供</li> <li>・提言に盛り込む内容について</li> <li>・揖保川を語り、生かす集いについて</li> </ul> <p><b>第7回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖保川を語り、生かす集いの実施報告</li> </ul>	<p><b>第8回: 提言に盛り込む内容について</b></p> <p><b>第9回: 提言(案)について</b></p> <p><b>第10回: 提言の公表について</b></p> <p><b>第11回: 提言の内容に関する意見交換</b></p>	<p><b>【治水】の基本的な考え方</b></p> <p><b>第13～15回:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治水対策の目標</li> <li>・量的安全度確保の基本的な考え方</li> <li>・対策による下流への影響確認</li> <li>・対策の効果</li> <li>・質的安全度確保の基本的な考え方</li> <li>・危機管理対策の基本的な考え方</li> </ul> <p><b>【治水】の疑問点の委員間の相互理解</b></p> <p><b>第16回拡大分科会:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回委員会質問に対する補足説明</li> <li>・対象洪水決め方、30年間推定事業規模</li> <li>・内水の考え方</li> </ul>

## (2-1) 今までの委員会（その2）

現状の認識	流域委員会提言の作成	河川整備計画原案の作成
<p><b>第1～5回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖保川流域委員会の情報公開について</li> <li>・揖保川と流域の概要</li> <li>・現地視察</li> <li>・情報の地域との共有方法について</li> <li>・住民意見の反映と広報</li> </ul> <p><b>第6回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会からの報告</li> <li>・治水に関する情報提供</li> <li>・提言に盛り込む内容について</li> <li>・揖保川を語り、生かす集いについて</li> </ul> <p><b>第7回</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖保川を語り、生かす集いの実施報告</li> </ul>	<p><b>第8回：提言に盛り込む内容について</b></p> <p><b>第9回：提言（案）について</b></p> <p><b>第10回：提言の公表について</b></p> <p><b>第11回：提言の内容に関する意見交換</b></p>	<p><b>【利水】の基本的な考え方</b></p> <p><b>第17回：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利水の目標</li> <li>・渇水被害の軽減対策</li> <li>・利水の適正化による河川本来の水循環の再生</li> </ul> <p><b>【環境】の基本的な考え方</b></p> <p><b>第17回：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の目標</li> <li>・環境の目標に対する具体的な内容</li> <li>・河川整備計画段階における環境影響分析導入について</li> <li>・複数案の検討</li> <li>・環境影響分析の内容</li> </ul> <p><b>第18回：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備計画段階における影響分析計画書(案)に盛り込むべき事項</li> </ul>

## (2-2) 現在の委員会

### 現在

#### **現在の委員会の状況**

- 河川整備基本方針の目標と整合を図りながら、環境影響分析計画書を作成中
- 河川整備基本方針を公表後に、環境影響分析計画書、分析報告書を公表し、第三者意見を収集し総合分析の後、委員会に報告

#### **今後の審議の進め方**

- 治水目標の議案だけでなく、環境、利水の全ての原案ができた段階で、全体像を把握できる。
- この段階で、原案に対して、委員会から総合的に諮問できる。

## (2-3) これからの委員会

今後

### 河川整備計画の策定・公表までの流れ

河川整備計画  
の  
原案の公表

関係機関協議

河川整備計画  
の案の決定

関係機関協議

河川整備計画  
の  
策定・公表

### 3. 住民意見の反映方法について

#### 揖保川流域委員会の最大の課題

## 住民への認知度向上と意見の集約

これまで委員会でも取り組みがなされているが、十分な評価がされていませんでした。

このため、広報と委員会の情報発信について市民の認知がどのようなものであるか調査し、その結果を用いて今後の対応策を検討します。



## (3-1) 広報活動の状況

現在、流域委員会では以下の情報公開形式を取っています。

記者発表

ホームページの  
整備と  
情報公開

流域自治体  
へのポスター  
掲示

チラシの配布  
(委員会開催案内)

ニュースレター  
の配布  
(委員会の報告)

委員会への  
一般傍聴

色分け: 紙やインターネットなどの媒体による方法

会議形式によるもの

## (3-2) 委員会での広報に関する分析

**上記で述べた広報活動について過去に委員会でも評価・意見が出されています。**

- HPのアクセスが極端に少ない
- 委員会の知名度がひくい
- ニュースレターの内容が抽象的で興味をひかない
- 一般人が興味を引きそうな年中行事、文化などを提供していく
- 流域委員会でのイベントに参画してもらう(フォーラムやシンポジウムの開催)
- 住民意見の反映と広報については「情報発信・啓発分科会」が担う(第5回委員会)
- HPはネット世代の若者に限定される
- 住民意見は原案作成の前後2回行う(第1回情報交流分科会)
- 公聴会を上流・中流・下流で行う。
- 一般の意見は基本的に公表していく
- 流域の学校の先生など河川環境に興味がある人を取り込んでいく

### (3-3) 委員会での広報に関する分析

以上を要約すると、以下の通りです。

①ニュースレターや、ホームページなどの情報が市民に周知・理解されているだろうか

②現在の情報発信の仕組みでよいだろうか。

③整備計画の内容や委員会を知ってもらう必要があるのではないだろうか。

④市民の「物言わぬ多数派」(サイレントマジョリティ)の声を取り込む方法は何か無いだろうか。

## (3-4) 現状での改善点

先の項目で述べた広報の改善策のうち、庶務レベルで実施可能なことについて取り組んだ報告を以下に示します。

- ① ニュースレターの改良
- ② 広報用のノボリ設置
- ③ 市民アンケートの実施
- ④ 委員長から広報活動に関する助言



# 改善点①ニュースレターの改良

## ニュースレターをより分かりやすく、親しみ安く改良しました。

- ・これまでのニュースレターは文字数が多い。
- ・マンガなどを利用し、市民の理解しやすさを求めています。これについては評価されている。
- ・しかし委員会の報告などについては、議事録的であり、読みにくさがあった。

このため、今回(平成18年12月発行)からは、A3版の両面というシンプルな構成にし、伝えたいことのみを掲載して、内容の理解を求めるとしました。

→現時点での評価は未だ出来ない。



## 改善点②広報用ののぼり設置

**委員会を認知してもらうためにノボリを設置しました。**

設置場所は許可の関係から、

- ・国土交通省龍野出張所
- ・国土交通省余部出張所
- ・今回の委員会がある「たつの市青少年館」

にノボリを12月上旬から設置して、委員会の認知度向上を目指しています。

→現時点での評価は未だ出来ない。



## 改善点③市民アンケートの実施

これまでの広報活動については、客観的に評価する材料がなかったため、市民の認識を市民アンケート等を通じて実施しました。



## 改善点④委員長からの助言

### 藤田委員長に広報に関する改善について助言をいただきました。

- ・ニュースレターの位置づけは、委員会内容、議論を正確に伝えること。それを満足していれば、改善は積極的に実行していく。
- ・市民に興味を持ってもらうアイデアとして、委員紹介、揖保川の生き物紹介、歴史紹介、地名の由来等の庶務提案は推進してほしい。
- ・地域委員を紹介することで、地元住民もその委員に意見を発言しやすくなる。
- ・生き物紹介は環境に詳しい委員等をお願いするのもよい。歴史紹介は、全委員を通して、姫路市の史談会等も協力を得ることができればいい。
- ・紙面レイアウトは、イラスト、図、写真を主体に、文字は極力少なく。文書を区切った方が見やすく、読んでもらいやすくなる。
- ・広報にも力を入れること。ノボリや横断幕によるPRも効果が興味あるので実施してみたい。



## 4. 広報・公表に関する市民の認知度調査

広報・公表に関する市民の認知度を知るために、アンケート調査を実施しました。

- ①調査方法: 正確性を期して面接式にて実施。
- ②調査規模: 全体で200票程度を想定。
- ③調査時期: 平成18年12月11日から12月23日



アンケートの実施状況

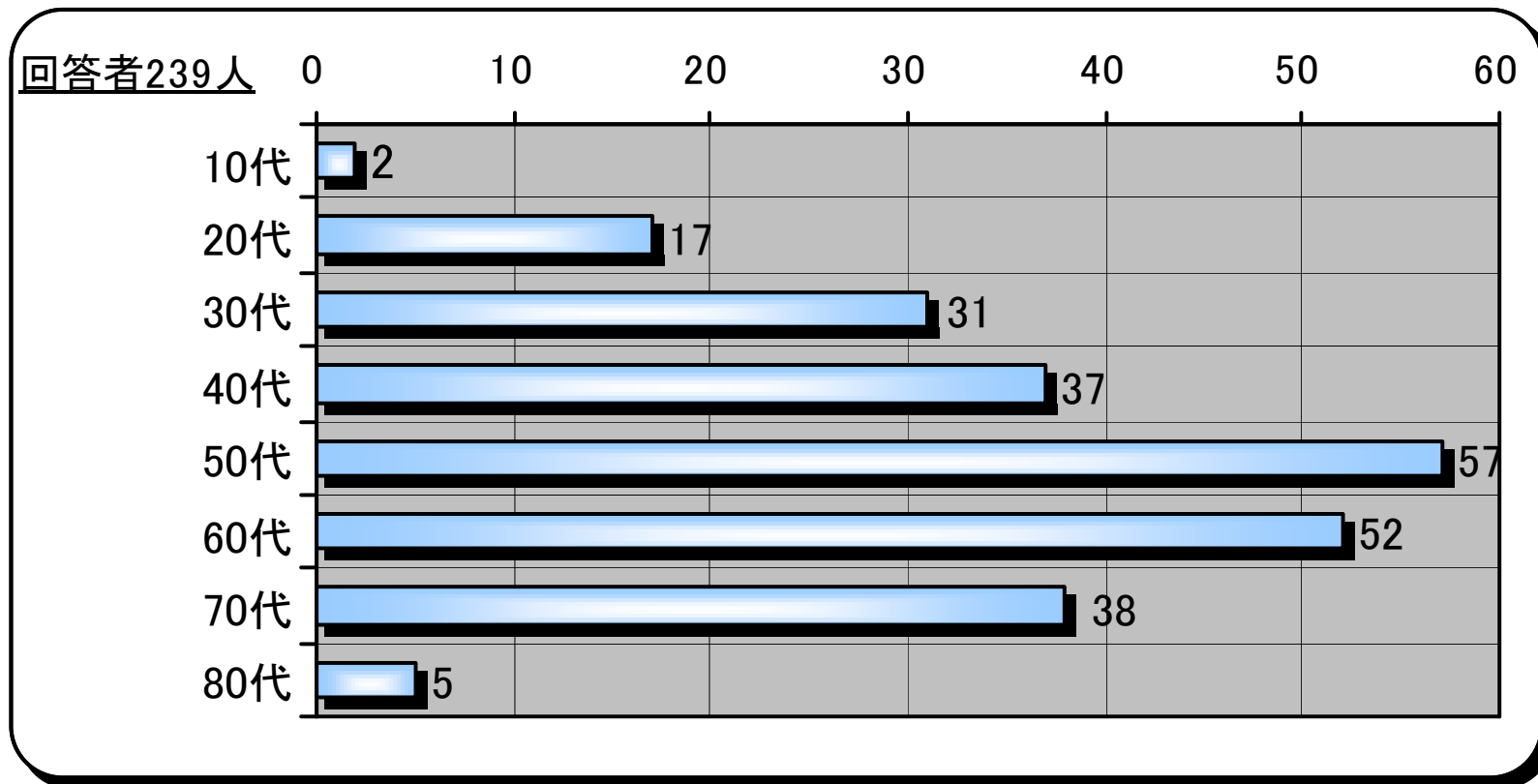
流域内の 配布自治体	実施数
姫路市	61
たつの市	103
太子町	29
宍粟市	46
計	239

実施場所等

アンケート調査場所
龍野市役所
ダイエー龍野店、 赤とんぼショッピングセンター
生谷温泉 伊沢の湯
宍粟市波賀市民局
道の駅南波賀
太子町役場
太子町立図書館
山陽電車網干駅
姫路市安富事務所
宍粟市山崎市民局
宍粟市一宮市民局

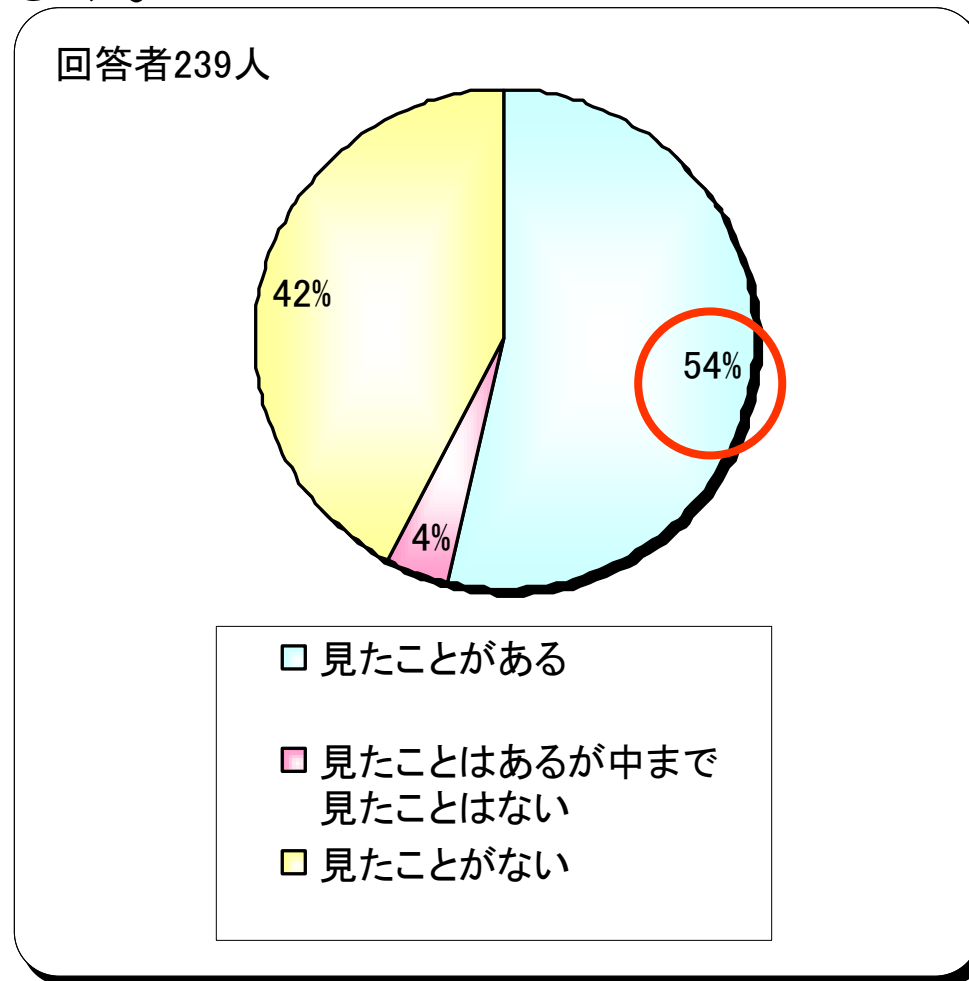
## 結果①調査対象者

調査対象者は、40から70代が多くを占める結果となりました。なお、若年層の意見を聞くために、作為的に若年層への調査を試しています。



## 結果②ニュースレターの認知度について

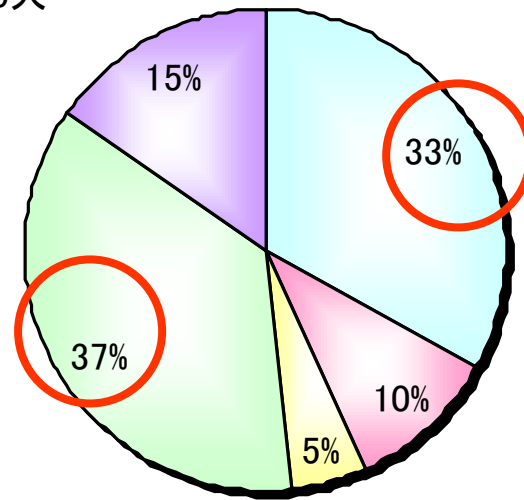
ニュースレターの認知度についてですが、**半数以上が見たことがある**と答えています。



## 結果③ニュースレターの評価について

内容について**読みやすい**という評価がある一方で、**内容の大半に興味が無い**という評価もありました。文章量が多いという評価も1割ありました。

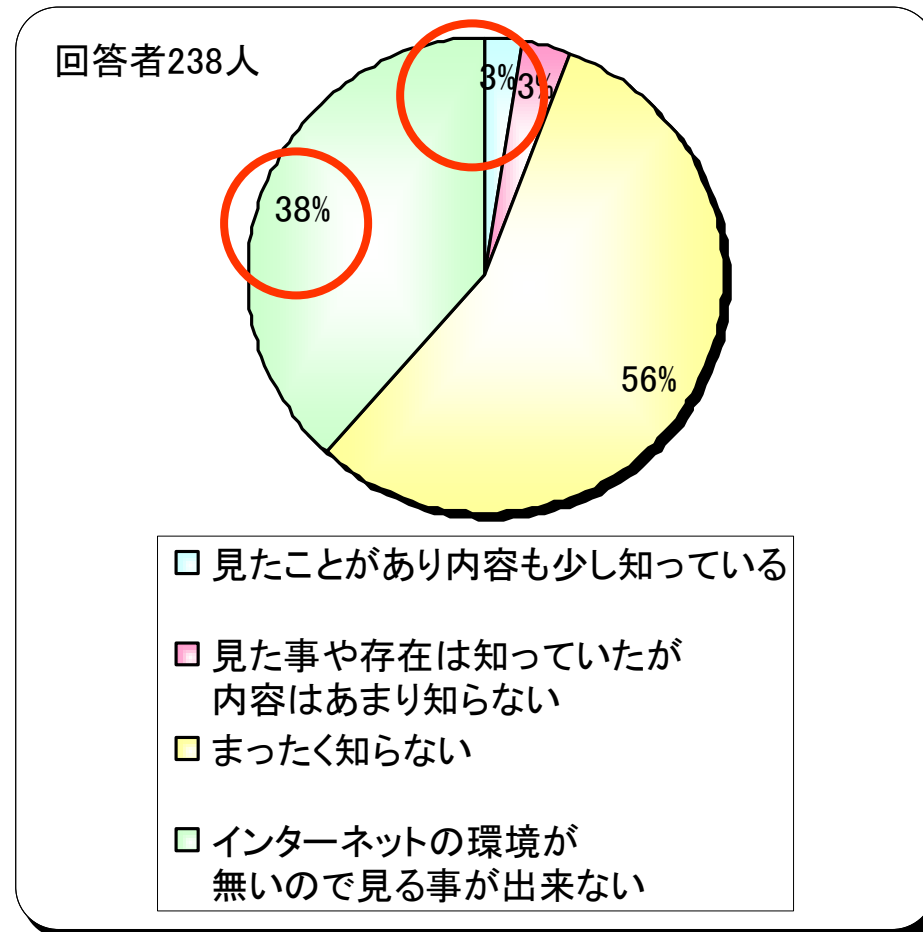
回答者130人



- 読みやすく、分かりやすい
- 文章量が多く読みづらい
- 専門用語が多く分かりづらい
- 内容の大半に興味がない
- その他

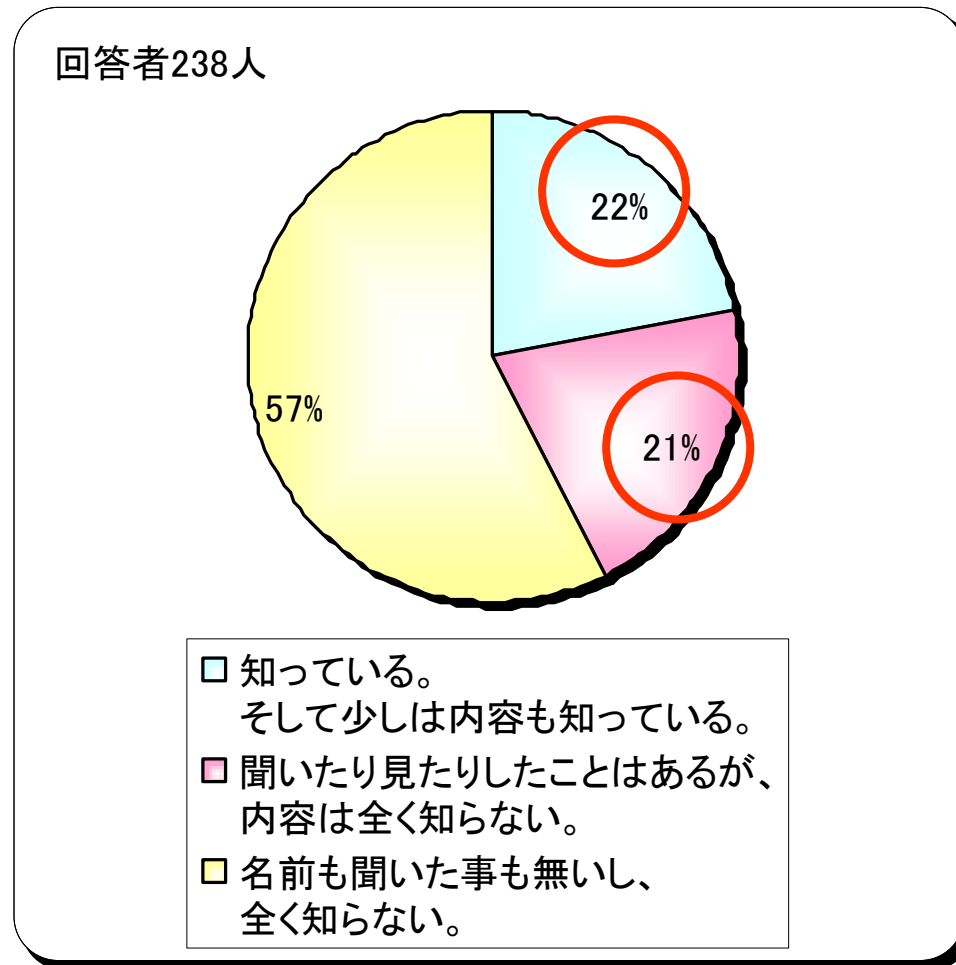
## 結果④ホームページの認知度について

ホームページの認知度については、見たことがあり、内容も知っている人がわずか3%とほとんど知られていない状況にありました。また、インターネット環境がない人も4割近くいることがわかりました。



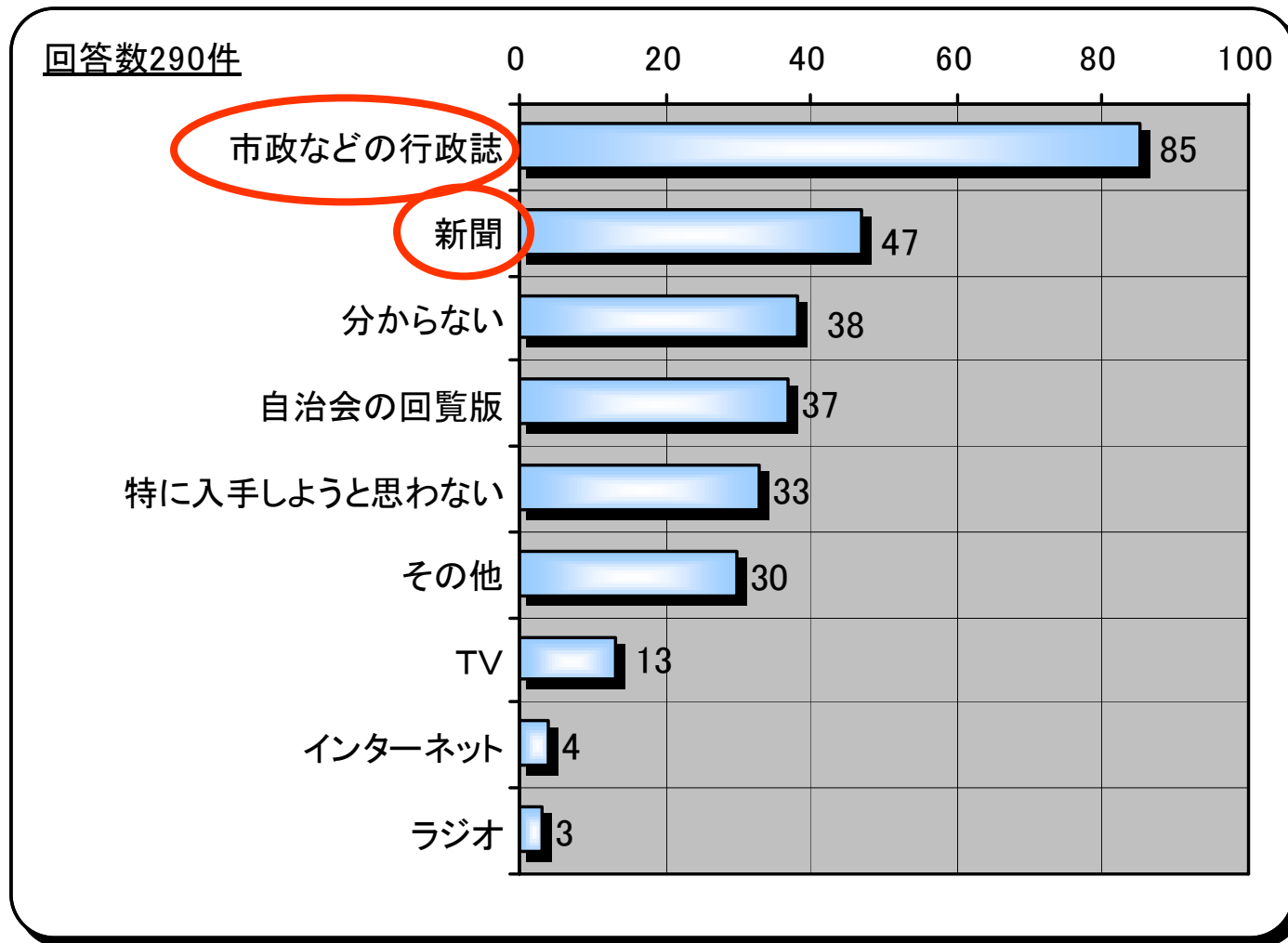
## 結果⑤委員会の認知度について

委員会の認知度は、内容まで知らなくとも、**知っている人が4割近く**いることがわかりました。



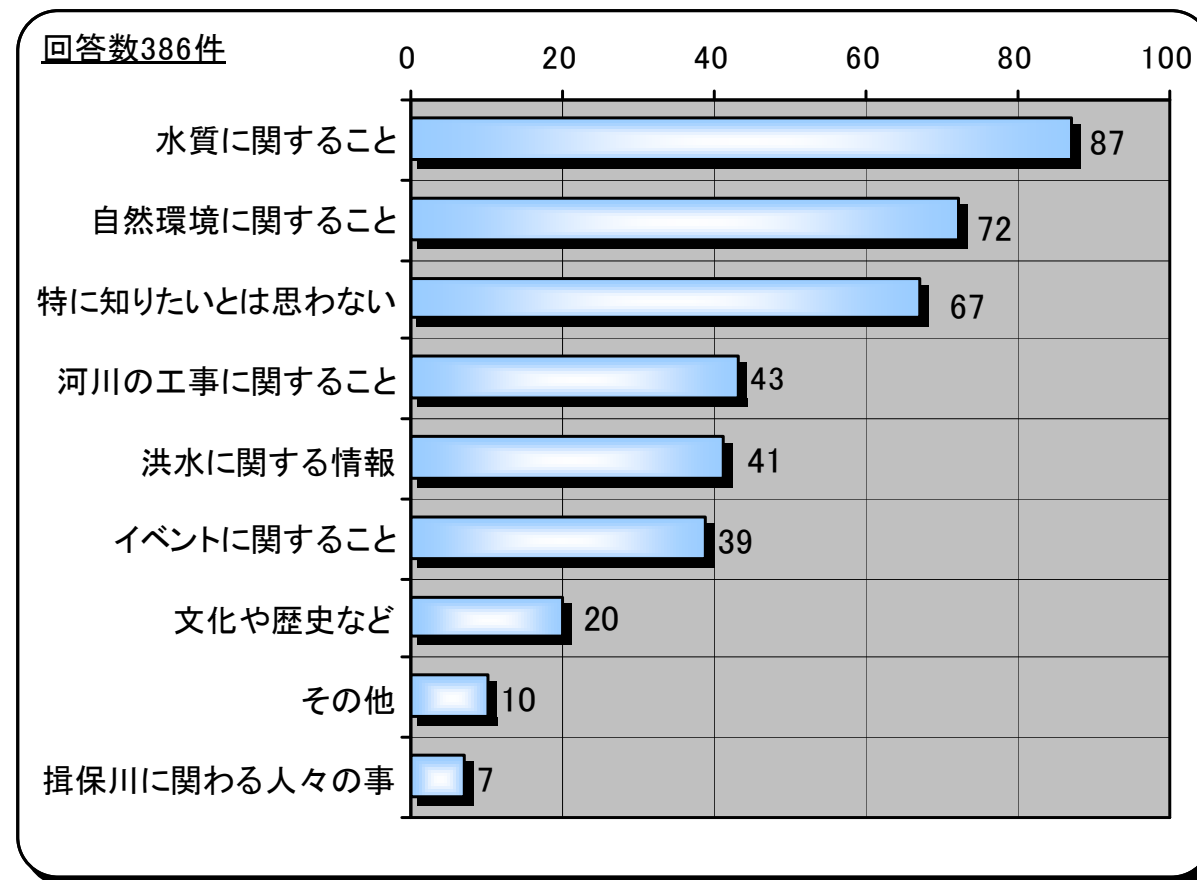
## 結果⑥ 揖保川の情報源

揖保川について情報を得る媒体は、「行政誌」「新聞」と続いています。



## 結果⑦ 揖保川に関して興味があること

関心が高い項目については、**水質が最も多く、ついで自然環境**となっています。しかし、**次いで多いのが特に知りたいことがない**という答えて、**関心が低い**ことが伺えました。





## 結果⑧アンケート結果からの対応策

これまでのアンケート結果を総括すると、以下のような対応が必要であると考えています。

ニュースレターは「水質」「自然環境」の話題を提供

・ニュースレターの認知度は半数程度なので、比較的認知度が高いと判断できます。ただし、内容については、市民の関心が高い「水質」「自然環境」の話題を提供していくことが必要であると考えます。

情報の周知は紙媒体

・ホームページについては、認知度がほとんど無くこれからの情報発信に限界があることがわかりました。さらに、もともとインターネット環境を有していない市民が多いと推測されることから、情報の周知は紙媒体に依存したほうが効果的であると判断できました。

委員会の審議内容の情報発信をさらに充実

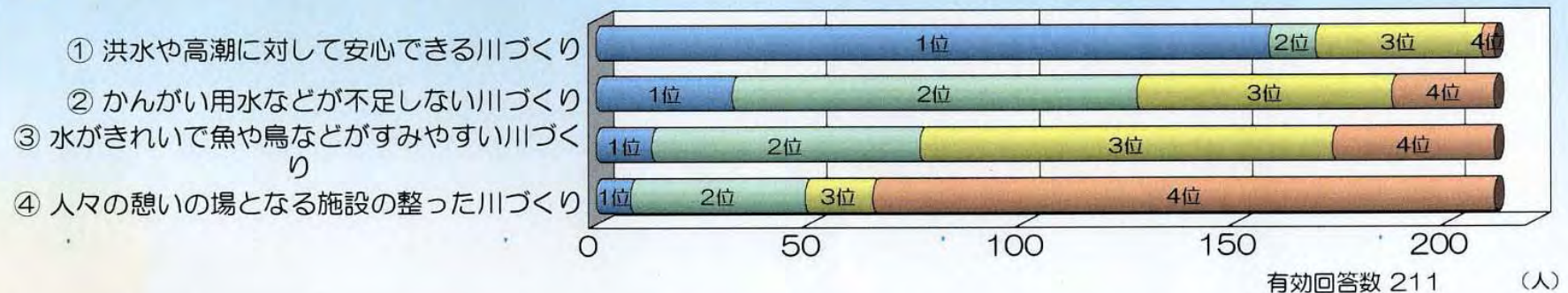
・委員会については、認知度がある程度高いと評価できます。が、その審議内容について知られていないため、委員会の審議内容の情報発信をさらに充実させる必要があります。

# (事例紹介1)徳島県 福井川

## 質問

福井川の川づくりについて、あなたは下記のどの項目を優先的に行えばよいと思いますか？

問1 「福井川の川づくり」について、あなたは下記のどの項目を優先的に行えばよいと思いますか？



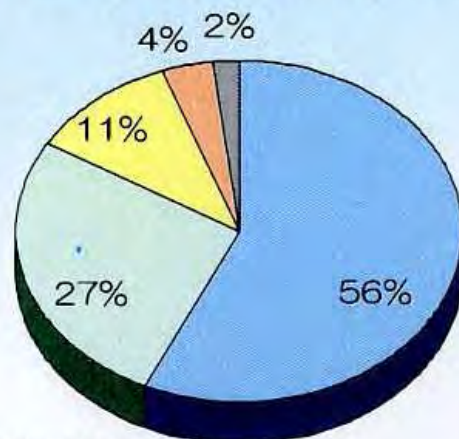
福井川の川づくりとして、「洪水や高潮に対して安心できる川づくり」を1位にあげた人が多くなりました。

## (事例紹介1)徳島県 福井川

### 質問

今後の川づくりでは、みなさまとの連携が重要です。あなたはどのような活動が大切だと思いますか？

問9 今後の川づくりでは、みなさまとの連携が重要です。あなたはどのような活動が大切だと思いますか？



有効回答数 246

- ① 河川敷の草刈り活動
- ② ゴミ拾いなどの清掃活動
- ③ 自然観察活動などのイベント
- ④ 特に必要な活動はない
- ⑤ よくわからない

「河川敷の草刈り活動」との回答が最も多く、全体の約56%を占めました。

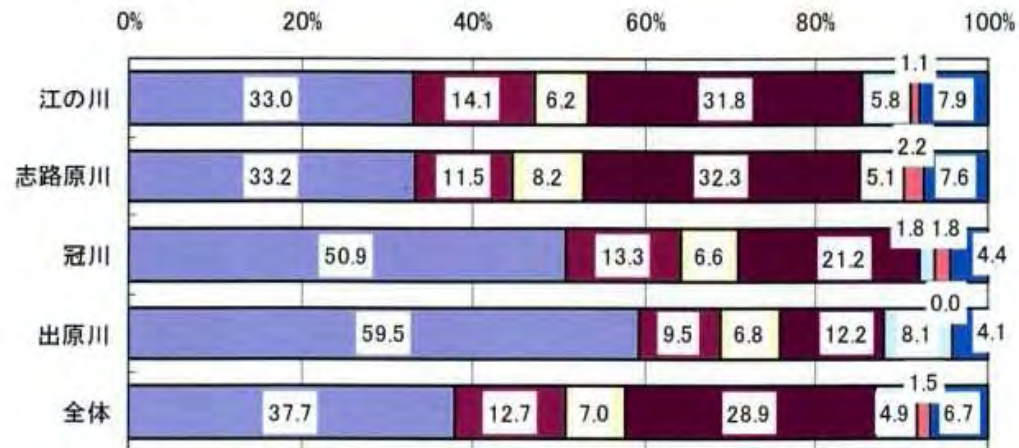
# (事例紹介2)広島県 江の川

質問

今後、河川整備を行う上で、最も考えなければならないの  
と思うことは何ですか？

質問 13

今後河川整備を行う上で最も考えなければならないと思うことは何ですか。  
(複数回答)



- 洪水を防ぐための河川改修
- 農業用水、水道用水、工業用水等の安定的な供給
- いやな臭いやゴミを減らすこと
- 自然な川の姿を保全すること
- 川を利用しやすくする為の施設整備
- 河川の整備はこれ以上必要ない
- その他・無回答

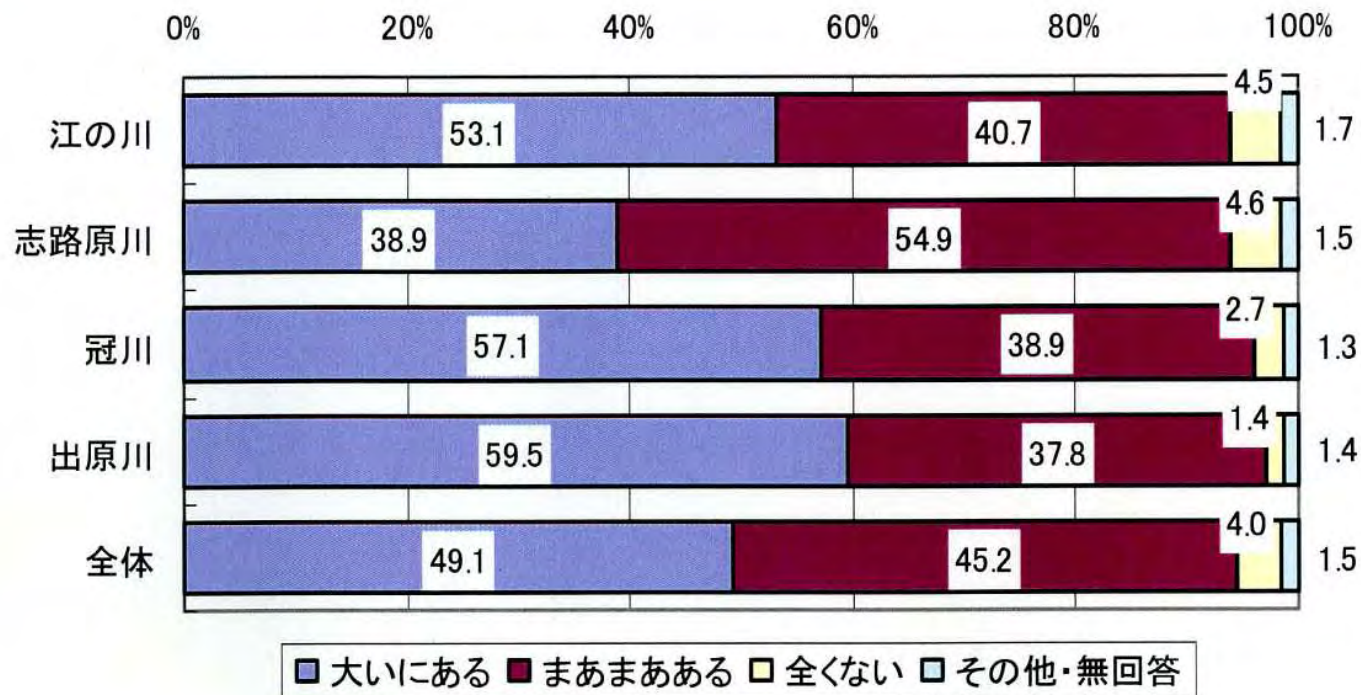
## (事例紹介2)広島県 江の川

質問

あなたは、もっとも親しんでいる川に対してどの程度関心がありますか？

質問 1

あなたは、最も親しんでいる川に対してどの程度関心がありますか。

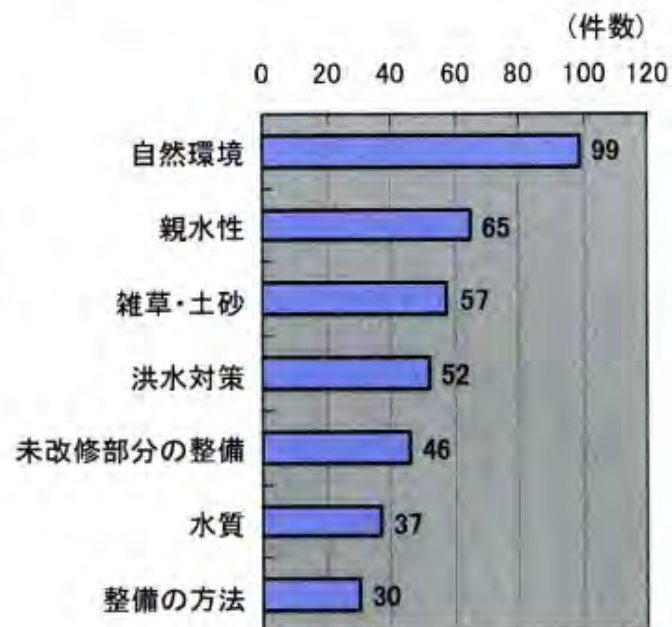


# (事例紹介2)広島県 江の川

## 質問 河川の現状や河川整備についての自由意見

### 質問 14 河川の現状や河川整備についての自由意見。

自由意見については、全体で 410 件の回答があり、最も多い意見が、「自然環境」に関するもので 99 件ありました。次いで、「親水性」に関するものが 57 件、「洪水対策」に関するものが 52 件と続いています。

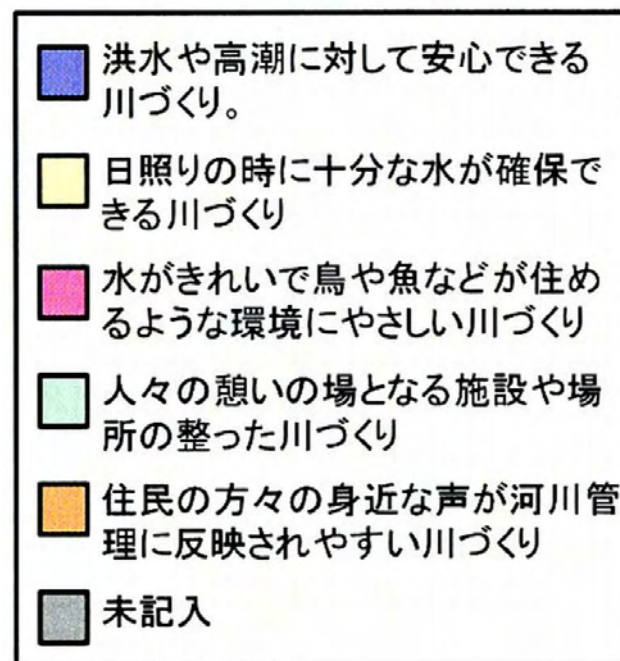
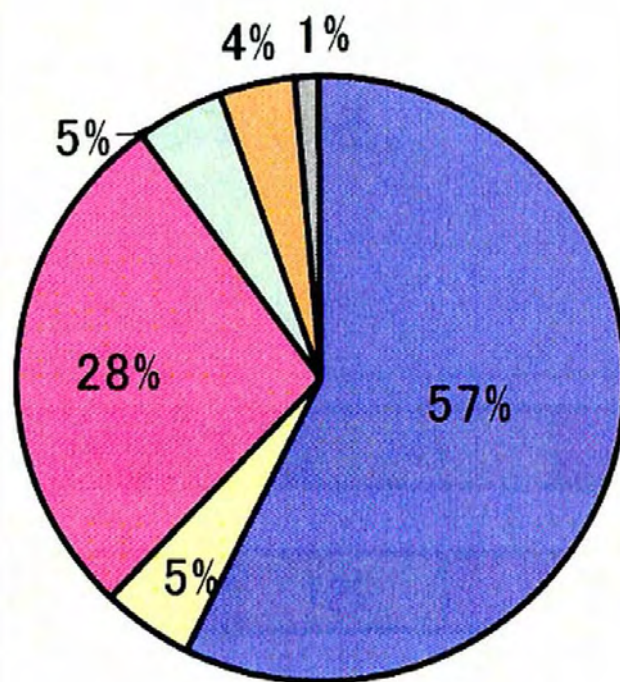


主な自由意見の回答件数

## (事例紹介3)広島県 岡/下川水系

**質問** 河川整備の優先順位は？

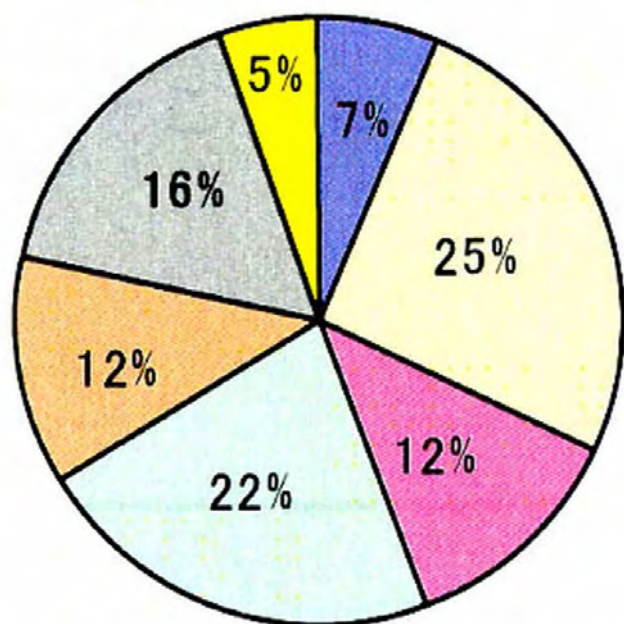
第1位



## (事例紹介3) 広島県 岡ノ下川水系

### 質問 河川整備計画への満足度について

「水系全体」



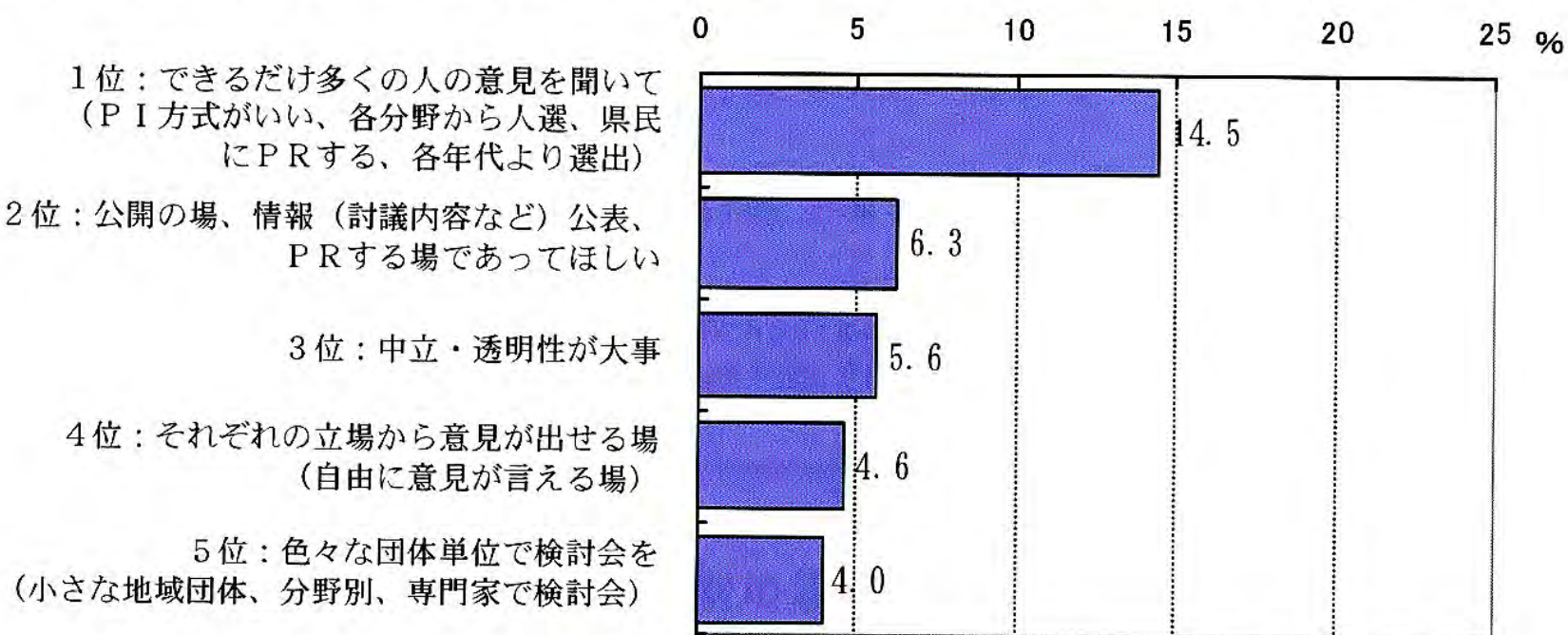
河川整備計画への満足度については、岡ノ下川水系全体では、「満足」と「不満」の回答が2分され、次いで「どちらでもない」「よく分からない」の回答もほぼ同程度となっている。



## (事例紹介4)徳島県 吉野川

**質問** 「みんなで川づくりを話し合う場(検討の場)」について、あなたはどのような場であって欲しいと思いますか？

1) 全ての小グループを多い順に第5位まで並べると下記のとおりです。

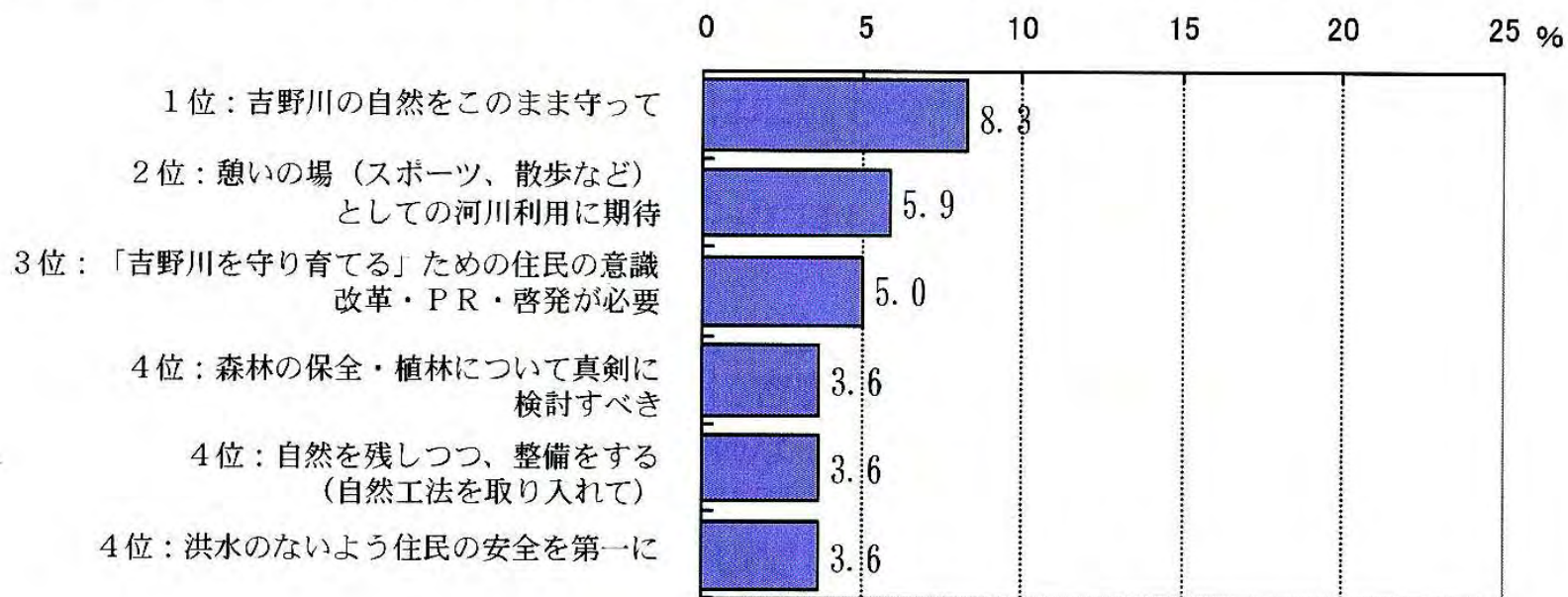


総情報数3,301件を100とした。

## (事例紹介4)徳島県 吉野川

**質問** みなさまの自由な意見をお聞かせ下さい。

全ての小グループを多い順に第5位まで並べると下記のとおりです。

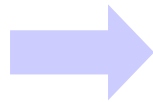


総情報数953件を100とした。

## 5. 広報・公表のあり方について

### アンケートの結果

多くの市民が揖保川を問題視していないことが判明



古くからの水質の問題が解決したことや、近年水害に見舞われていないことなど、「大きな問題を抱えていない良い川」としての認識があるからとも考えられます。

しかしながら、河川整備計画の策定には流域の意見を反映することが必要であり、現在の状況で策定を行うことについて、委員会の考えをここで確認しておく必要があると考えます。

**改善点① 揖保川に対する関心度の向上**

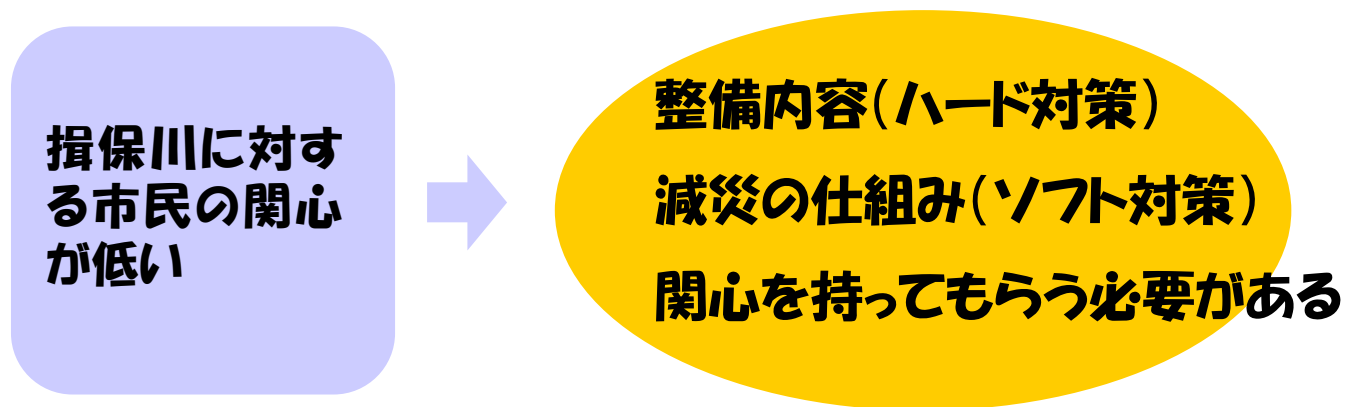
**改善点② 市民等のコミュニケーションの不足改善**

**改善点③ 自治体、自治会の参画を促す**

## 改善点① 揖保川に対する関心度の向上が必要

昔に比べ水質が良くなり、ここ数年間洪水のない揖保川に対しては市民の関心が特段高くないのは理解できます。

しかしながら、有事に備えた治水の整備内容(ハード対策)の広報や、減災の仕組みなどのソフト対策については平穏な現時点であっても関心を持ってもらう必要があると考えます。



## 改善点②市民等のコミュニケーションの不足改善

これまでの市民に関心を持ってもらい意見を取り入れるために、委員会等の公開などを行っていたが、積極的な招き入れはしていませんでした。

今後、揖保川に関心を高めてもらうためには、委員会側から市民に対して今以上にアプローチする必要があると考えます。

委員会への積極的な招き入れはしていない

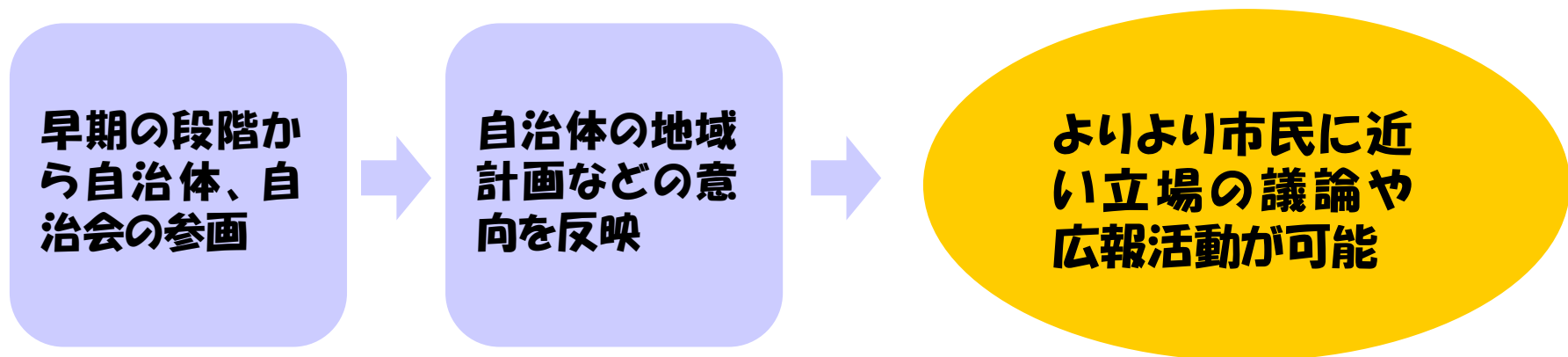


委員会側から市民に対して今以上にアプローチする必要がある

## 改善点③自治体、自治会の参画を促す

自治体は、河川整備計画の原案公表段階で意見を聞くために参画するが、早期の段階から参画することで自治体の地域計画などの意向を反映して行くことが必要です。

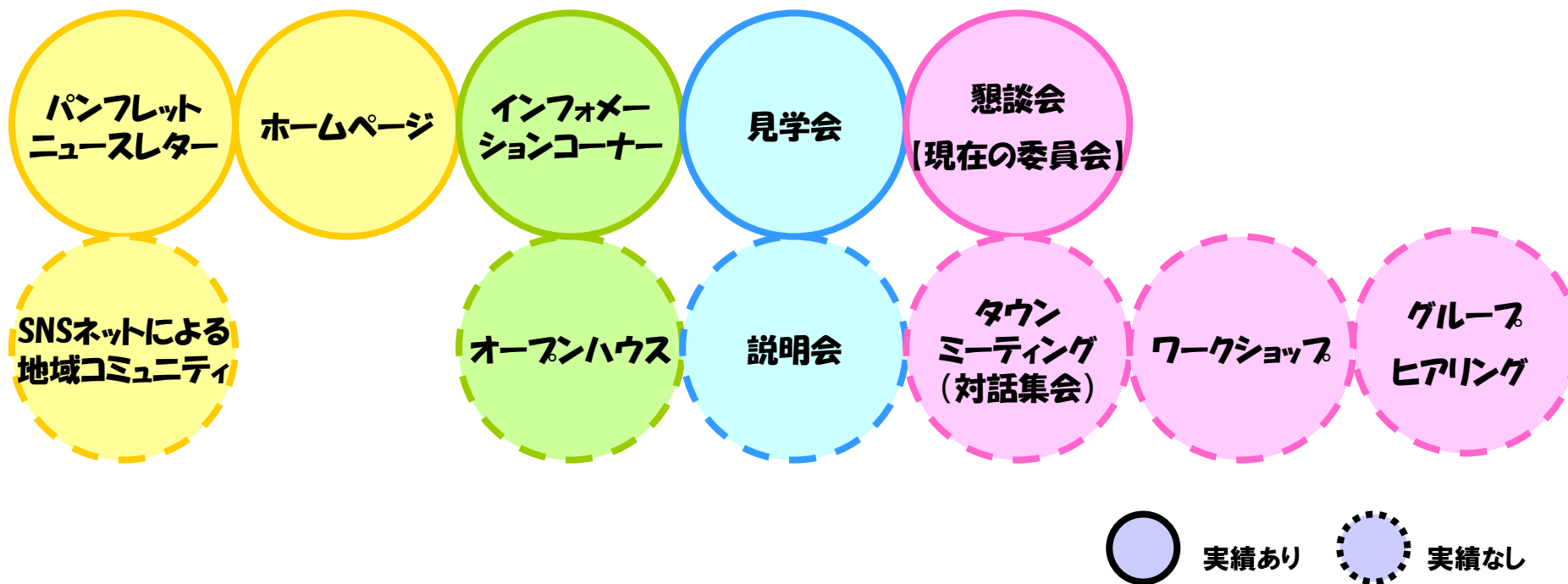
また、自治体が参加することによりより市民に近い立場の、自治会を巻き込んだ議論や広報活動が可能になると考えます。



## 【改善策の提案】

現状分析をうけて、積極的に市民に情報を発信するために、具体的な方法について次ページの表に整理しました。

なお、各方法は単独で成り立つものではなく、各手法の組み合わせにより相乗効果を発揮するものと考えます。



色分け: 紙やインターネットなどの媒体による方法 展示による方法 事業者側からの説明 会議形式によるもの 39

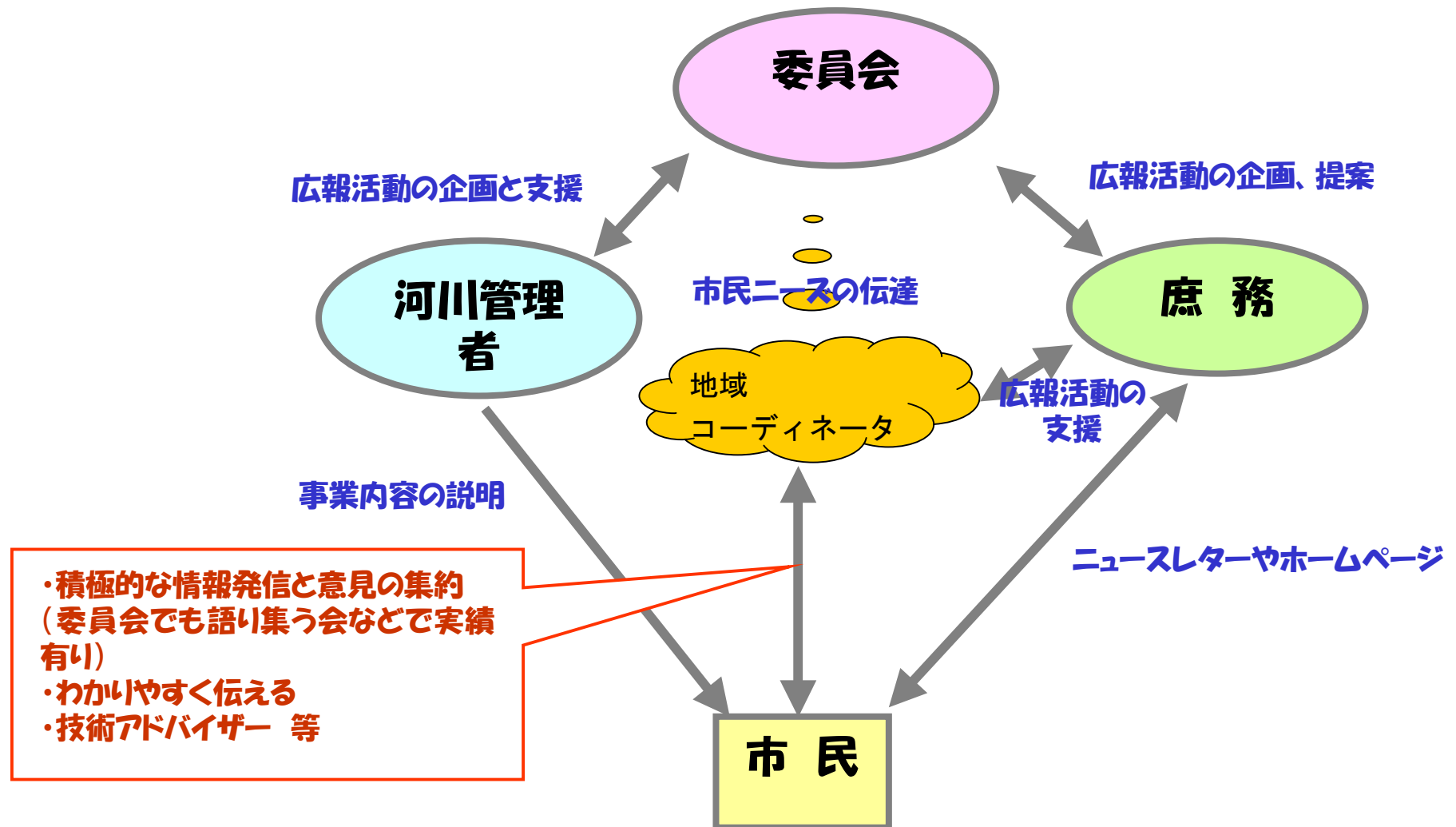
# 広報・公表活動の方法とその内容

	委員の役割	関わり方
(1) パンフレット、ニュースレター 【実施中】	パンフレットやニュースレターへの記事の投稿を行ったり、原稿のチェックを行う	補助的に関わる
(2) ホームページ(HP)【実施中】	HPへの記事の投稿を行ったり、原稿のチェックを行う	補助的に関わる
(3) SNSネットによる地域コミュニティ	会員となり、ネット中での発言を行う。	活性化を図るために主体的な参加が必要
(4) インフォメーションコーナー 【たつの市において実施中】	展示物の監修	補助的に関わる
(5) オープンハウス	展示物の監修を行う。	イベント時には説明者として参加する
(6) 説明会	説明者の話しをわかりやすく解説し、住民側のアドバイザーになる	主体的な参加が必要
(7) 見学会【実施経験有り】	説明者の話しをわかりやすく解説し、住民側のアドバイザーになる	主体的な参加が必要
(8) 懇談会【現在の委員会】	話題提供者や専門分野の審議委員として発言	主体的な参加により会議の運営を行う参加者を集める
(9) グループヒアリング	議論の導き役や論点をわかりやすく解説し意見を出しやすくする役	主体的な参加が必要参加者を集める
(10) タウンミーティング(対話集会)	話題を提供したり、住民にわかりやすく解説する役	主体的な参加が必要
(11) ワークショップ	ファシリテーターを行ったり、住民側の技術アドバイスを行う	参加者を集める。 主体的な参加が必要

色分け: 紙やインターネットなどの媒体による方法 展示による方法 事業者側からの説明 会議形式によるもの 40



# 広報・公表活動支援策について



今後の広報・公表活動の役割分担(素案)